

3. 「貧困」とたたかう練馬

このレポートは、かとうぎ桜子が区議会議員としての最初の4年間の活動について総括をするためのものです。表の面に掲げた6つの項目が、特に力を入れてきたものです。

今回は6つの政策のうちのひとつ、「貧困」についての特集です。
2010年12月3日、貧困問題をテーマにした集会を行いました。そのときの様子を中心に紹介します。

つながりの貧困」がすべての根源

「貧困」は経済的な問題だけではない

「貧困」という言葉を聴いて、皆さんはどんなことを想像しますか？ 経済的な困窮でしょうか。

実は、「貧困」とはお金の貧しさだけを意味するのではないのです。生活に困っているのに家族、友達、周りの人がだれも支えてくれない―「つながりの貧困」がとても大きな問題です。

2、30代の路上生活が増えている

集会上に講師として来ていただいた稲葉剛さんは、「もやい」という団体で、主にホームレスの支援をしてきた方です。路上で生活を始めようとしても保証人が見つからないと入居できない―ここにも、経済的な貧困だけではなく、「つながりの貧困」が見えてきます。「もやい」は保証人のいない人のための支援の活動もしていたのです。

そんな稲葉さんが今回お話しくださったのは、「ホームレスの若年層化」の問題でした。2、30代で路上生活をする人が増えているのだといいます。

30代以下の路上生活者を対象とした調査をしたそうなのですが、ビッグイシューが中心にまとめた「若者ホームレス白書」、そこで見えてきた特徴がいくつかあるというものでした。

ひとつには、派遣の仕事をしていたために、仕事のみならず住まいも不安定になっている人が多いということ。調査対象者の中で66%の人が派遣で働いていたそうです。その中でも特に製造業派遣は28%。また、精神的に不安定で抑うつ的な状態にあると答えた人は42%におよぶということでした。

そして、子どもの頃に虐待を受けているなどの理由で施設に入っていた人が大人になった時に、安定した仕事を見つけることができずに「貧困状態」に至ることも多いという現実もあります。

「子どもたちが虐待で死亡するたびに、なんとか助けられなかったのか、児童相談所はなぜ動かなかったのか、と言われますが、でもそこで救われたとして、その子のその後の人生に何が起こっているのかということを見ていかないとけないと思います。」と稲葉さんは指摘します。

こうした例をみても、「貧困」は仕事がない、住まいがないだけではなく、病気になるっても困っても相談できる人がいないという「つながり」の貧困が大きな問題

であることが分かります。

自殺問題の根も同じ

もうひとりの講師である中下大樹さんは僧侶で、今は自殺問題に取り組んでいます。その前はホスピスで働いていたそうですが、もうお亡くなりになるという患者さんに、家族が会いに来ないというケースを見てきたそうです。人生の終わりにだれもそばにいないということが実際に起きている―「つながりの貧困」を感じたことが今の活動のきっかけだったということでした。

「ひとつの問題だけで自殺に至るわけではない」と中下さんは言います。いくつかの問題―特に人間関係の問題が重なって、「自分は生きていてもいい」とは思えなくなると自殺に至ってしまうということなのです。

今、日本では毎年3万人の自殺者が出ているといわれますが、当然のことながら、人は死ぬまでは生きているのです。生きている間の問題の解決が自殺予防につながるということを考えれば、やはり自殺問題も「貧困問題」と同じ課題―「つながりの貧困」を持っているといえます。

会場の参加者からは、高齢者施設の問題や住宅政策についてのご質問もありました。これらも皆、共通する課題を根底に持っているといえます。

では、練馬の地域で私達には何ができるのか―私が議会で問題

稲葉剛氏から

社会におきる問題に心を寄せて人が集まることがあります。そうやって問題意識によって新たな縁が生まれることもあります。これを「問題縁」と呼んでいます。「問題縁」でつながっていきましょう。



【プロフィール】
路上生活者、生活困窮者の支援を行い、「住まいの貧困」の問題に取り組む。2001年湯浅誠らとくもやい>を設立。安心して暮らせる住まいを確保できる社会を目指し活動中。

中下大樹氏から



「無縁社会」と言われますが、縁がまったくない人はいません。ただ機能していないだけなのです。お互いに「頑張ってるね」と声をかけあえる余裕のある人間関係を作っていきましょう。

【プロフィール】

自殺問題、貧困問題に取り組む。僧侶として、年間100人程の身寄りのない方、自殺された方を弔う。「いのち」をキーワードにした様々な活動を行っている。



集会にて、講師の2人とかとうぎ桜子